

座談会

ふるさとの自然を見なおそう



出席者

◆斎藤英郎 (山根)
(町自然保護指導員)

◆岩城ひろ子 (川内)
(会社員)

◆後藤伝吉 (鳥取)
(国見町・桑折町有北山組合議長)

◆佐藤弘利
(住民課 生活環境係)

◆斉藤ヒサ子 (山崎)
(主婦)

◆赤坂正勝 (司会)
(企画課長)

自然をたいせつに 環境美化 をすすめよう

美しい自然、気持ちのよい環境は、人間が豊かな生活を送るための基本です。私たちは、その中で生まれ生活しています。この貴重な財産を子や孫に伝えなければなりません。近年、開発によって緑が少なくなり、自動販売機の普及で、アキカンの「ポイ捨て」などで、自然環境は破壊されつつあります。美しい自然をとり戻し、きれいな河川、ゴミのない環境をつくるため、町民一人一人がマナーを守って、住みよい町づくりをすすめていきたい。

現状は

司会 本日は、「ふるさとの自然を見なおそう」ということで、今大きくとりあげられている、環境美化について、みなさんのご意見あるいはご要望などお聞かせいただきたいと思います。

斎藤 阿津賀志山の自然保護指導員をしています。展望台付近にゴミや空き缶がかなり残っています。ドラムカンを備えつけてゴミをそれに入れるようになっていますが、それをガラスがらからして困っています。それと、子どもたちはゴミを決められた場所に捨てますが、大人が守ってないようです。やはり、ゴミは持ち帰るようにすべきだと思います。



斎藤 英郎さん

後藤 私も同感です。ゴミ入れを置くよりも持ち帰り運動を進めるべきだと思います。また、空きんの問題ですが、昨年県道沿いの草刈りをした草をもらったんですが、その中に空き缶がかなり入っていて取り除くのがたいへんでした。

わが町の環境は

高麗(高麗)客観的にはとても良い環境にあると思います。他の町からきた人も、町の中央に公園がありとてもうらやましがっておりまして、ゴミや空き缶も、だいぶ少なくなつてはきていると思います。後藤 私も全体的には良いと思います。とくに東北自動車道のサーピニアエリアも一番景勝の地であると聞いています。ただ、他の町の人ゴミや空き缶を捨てるようですね。

岩城 私もたいへん良い環境だと思えます。山があり、川があり、緑がきれいで自然環境にたいへんめぐまれてると思います。ただ残念なことは、先ほどから話している空かんやゴミが目につく



ことですが……。

司会 空かんやゴミさえなければたいへん良い環境というのですが、やはり問題は、空かんやゴミをいかにしてなくしたらよいかということですね。



赤坂企画課長

個人から地域へ

佐藤 吸いながら数本捨ててある所には平気で捨てるが、全然落ちていない所には捨てない、という習性が日本人にはあるそうです。国民性もあると思いますが、たと

えば、日本人は歩きながらたばこを吸いますが、はずかしくてそんな行為ができない国もあります。また逆には、ハンバーグを歩きながら食べる国もあれば、日本でははずかしくてできません。そういうふうに、日本でも「ゴミを捨てるのははずかしいんだ」という意識をうえつけ、それを国民性として盛り上げていけばいいと思います。一人ひとりの集まりが、町となり国となるので、地域から運動を展開しなければならぬと思います。



佐藤 主事

高麗(高麗)そうですね。やはり今いわれたとおりだと思います。とくに、これから観光シーズンを迎え阿津賀志山展望台や万蔵稲荷など人出が増えますが、シーズンが終わってみればゴミの山「これじゃせつかくの景勝の地も台なしです。清掃などすることももちろんたいせつなことですが、それよりも持ち帰ってもらうなり、ゴミ入れにきちんと入れてもらうなりして、立看板を立てるなりして地域から盛り上げていったらいいと思います。

岩城 個人個人が注意するのはもちろんですが、今いわれたように地域で組織づくりをするのはいくらもいいと思います。それがやいて町全体に広がってきい町づくりができると思います。

後藤 とりあえず「持ち帰り運動」「ノーポイ運動」を進めるべきだと思います。夏になると涼を求めて牧場に登る人が増えますが「周りが山だからかまわないうら」などと空かんやゴミを捨てていく人がいるので注意を呼びかけるべきだと思います。一人ひとりの注

意からみんなへの声かけ運動、そして地域での組織づくり、これらの活動が実を結んでいけば私たちのふるさと国見をよりすばらしい町にしたいと思います。

高麗(高麗)そうですね。これからもこういった会議を多く開いてもらいたいと思います。そして、できるだけ早い機会に組織づくりを行ってほしいと思います。司会 本日は有意義なご意見を出していただき、ありがとうございます。町でも、広報などを通じて環境美化に努めておりますが、今後、本日のご意見をもちにしなから、なお一層住みよい町づくり環境づくりを進めます。今後のご協力をお願いして会議を閉じさせていただきます。

不便な 市外局番の解消へ



電話をより便利に、ご利用いただくために、ただいま福島電報電話局では、地域のみなさんのご要望を受けまして、昭和五十八年十二月末を目前に、伊達郡全域の市外局番を、「〇二四五」に統一する準備をすすめております。

現状では、福島市との相互間や伊達郡九町の電話が収容されている、伊達、桑折、藤田、保原、梁川、霊山、川俣の各局相互間については、おのおの市外局番をダイヤルしないといつたりありません。しかし、市外局番統一の工事が完成しますと、福島市、ならびに伊達郡内の各地域相互間の通話に、すべて市内局番(二ケタ)と電話番号との計六ケタのダイヤルでつながるようになります。

なお、実施日は、確定しただいお知らせいたします。

福島電報電話局

☎(〇二四五)23111111
☎(〇二四五)31111111

現在、私たちの生活を取りまく環境は、めまぐるしく変化を遂げつつあります。景気の回復の遅れ、諸物価の高騰、公共料金の値上げなど、何を取っても、生活を圧迫する要素ばかりです。

しかし、経済の不況は、日本ばかりでなく、世界的な傾向でもあり、私たちだけが、急速に回復するのは不可能で、これからも、厳しい条件の中で、生活を営まねばなりません。

私たちは、こんな状況の中で、どんな設計を立て、どう対処する

町政モニターサロン

私の宝物

吉田勝基



かが問題です。過去の経済成長期や、使い捨て時代を経験した私たちには、心で思っても、生活を切りつめ節約し、合理化するなど、たいへん勇気と努力の必要な、困難な事でもあります。

生活に必要な、諸経費の節約といつても、限度がありますし、近所友人などのつき合ひも、社会生活を営む以上、欠くことのできないものです。時としては、レジャーも、明日への活力として欠かせないような氣もします。

こう考えると、むしろ、何もか

も必要であって、節約どころか、かえって出費が増すばかりの条件がそろってしまいます。

そこで、私たちは出費防衛に努力しなければなりません。

これからの悩みを解決するには、健康体が必要となってきます。体が弱くては、解決どころか、かえって出費の増大になり、一家の生活が、どん底に追いやられることもありま

健康こそ宝物であり、無形の私の宝「健康」にしております。

中学校時代の、学校目標を、今

でも思い出します。一つは健康にして明朗、二つは豊かな教養、三つは自主協同の精神、これらの目標も、私は、健康であればこそであります。

幸いとして、非常に恵まれた健康に感謝しながら、いついつまでも、私の宝物をこわすことのないよう、管理に努め、充実した日々を送りたいと念じております。

頭寒 足熱 腹八分目

と、これは「長生きの秘けつだぞ」とある先生が話されたことを思い出しながら。

あの人

63

—民話おばあちゃん—

阿部 ツルノ さん
(大木戸字前16 85才)



「ザツと昔、山の中に貧乏な三人の兄弟があつた。

兄(せな)を太郎、まん中が次郎、末っ子を三郎といつた。

三人は、田舎(いなか)を出て東京で暮らしてみたいと思つた。

東京へ行つたら、太郎はうんと勉強したい、次郎は何したらいいべ、三郎はうんとかせいでせ二い

つばいためるつつだ。

そうして三人は、東京さ出かけ

で行つた……」

と話してくれるのは、民話おばあちゃんとして知られる、大木戸の阿部ツルノさん。八十五才だというが、とても元気、話術もたくみである。

現在、三干ぐらいの民話を語る事ができるというが、これらは小さい頃、おかあさんが、襤褸(ぼろ)を繕いながら語ってくれたものだという。毎日、話しを聞くのが楽しみだったそうである。

それからすでに、七十数年を経ているわけだが、記憶も確かで、ほとんど覚えてる。

十年ほど前に、民話を集めてる人がきたのがきっかけで、話し始め、その後は、県北中の民話研究会や木蘭会、地域の子どもたちなどに語つてきかせている。

生まれは光明寺で、小さい頃は

体が弱く、学校にあがつても、二、三日しか行けず、次の年に入りなおしたという。

「五十歳の頃、盲腸になつてた。そいづわい、青根に湯治(とうじ)と思つてない、青根に湯治(とうじ)に行つた。そしたら、盲腸がやぶれて、腹膜炎をおこしてしまつた。こらたいへんだつうんで、二十八日目に病院さ入院して、切らないうちで治つてしまつたぞい」と語るツルノさん。

(現在は、むすこさん夫婦と三人暮で、二十八年間のハタ織りで左目を患い、あまり出て歩くことはない。「十数年前までは、近所の人とよく湯治(とうじ)に行つたもんだ。みんなにせがまれて、民話を話して聞かせたり、流行歌をうたつて聞かせたりしたもんだ」と語つてくれた。

わたしがらいいいとき、おじいちゃんやおばあちゃんが話してくれた昔ばなしなどは、おおきくなつてからも、心に残る、なつかしい思い出である。

昨今、昔ばなしを聞かせたり、子守り歌などうたつて聞かせる人が非常に少なくなつてしまつた、こういう日本の風習を、後世の人たちに残したいものである。その意味でも、貴重な存在であり、もつともつと長生きをしてもらいたいツルノさんである。



いつも安全で快適な道路を

—八月は道路を

まもる月間—



こんなことはやめましょう

①道路に、空かん、空びん、ゴミなどですること。

②道路に、自転車や自動車を長時間おおくこと。

③道路に、商品台や箱などをおくこと。

④道路上に、広告看板などをおくこと。

こんな時は連絡を

①道路に、落石や土砂くずれを見つけたとき。

②路肩や、路面、側溝蓋がこわれ危険な状態と思われるとき。

③ガードフェンスや緑石など、道路施設をこわしたとき。

こんな時は手続きを

①出入口の道路側溝に、蓋をかけるとき。

②道路の法面に、盛土するとき。

③ガードフェンス、緑石など、道路施設を取りはずすとき。

④壁面に取り付ける看板などが、道路上にはみ出すとき。

役場建設課 ☎二二一 有四一六二
福島建設事務所 ☎二四五(三)二二二

桑折警察署から

夏の事故防止

危険がいっぱい溜や川



数となっています。

◎まさかと思うところで発生

子どもの事故をみると、幼児の遊び中の転落が最も多く、自宅周辺の身近な池や、用水堀などで発生しており、ちよつとした注意があれば防止できたのに、悔やまれる事故が多くあります。

◎ふだんのシツケを

水遊びや水泳には、子どもたちだけでは行かない。危険な場所には近づかない、遊ばないことを繰り返し返し、具体的に、教えておきましょう。

◎愛の一声を

子どもたちが、危険な場所で遊んでいるのを見かけたら、一声かけてやめさせる、「一声運動」をすすめましょう。

◎幼児はいつも目をON・OFFに

子どもがひとりりで遊んでいるからと、大人が仕事や話中に夢中になっていることはありませんか？事故が発生すると、必ずといっていいくらい「ちよつと目を離したスキに」ということが聞かれます。幼児からは、いつでも、どこでも、目を離さないことがたいせつです。

国見の地名

井戸②

塚野目の井戸下位置図



石母田には今井戸前、圃場整備前の塚野目には井戸下と言う地名があった。井戸とは飲料に供する地下水を汲み上げる施設を指すものであるが、この両地名とも人家のない水田中の地名で、飲料用の井戸とは関係がなさそうである。現在圃場整備事業によって水路などの旧村落景観は大きく変わってしまったが、石母田の今井戸前は山崎との境、柱立山の上麓から湧き出る大清水(三吉神社前)を水源とする堰溜みにある水田で、この堰によって灌漑水の供給がなされていた。塚野目の井戸下はかつて東北地方でも最大規模といわれた徳江、塚野目条理遺構の基幹水路である中江堀(徳江堰)沿いの水懸地^{みづかけ}で、江堀と井戸は同じ意味と解される。

例では、「泉または流水から用水を汲みとる所、井戸」等の意味にも解されている。井戸(二頁頁、山本博著)国見の地域においては、水路の呼び名は徳江、高城村の中江堀、等中世の呼称が残されていたが、それ以前の水路が前述の如く石母田の今井戸前、塚野目の井戸下の地名にみられるように井戸と呼ばれる語が現在まで地名として残された。

戦国時代・近世以降になると江堀には西根上堰のように堰地名が多くなる。(伊達氏歴代年表四七巻)堰は水の流を塞いで用水をとる構造物を指すもので、西根上堰は本米西根上江堀と呼ぶべきであるが、簡略化して江堀と呼ぶべきである。このように塚野目の井戸下の水田をかくわした徳江堰を例にとっても、時代により呼称が井戸、中江堀、徳江堰と変わったことが知られる。

菊池利雄

善意の窓

町社会福祉協議会に

◆阿部恒夫さん(大木戸)から
五万円―故武夫さんのご遺志

◆斎藤唯一さん(錦町)から
二万円―故サクさんのご遺志

◆村上薫さん(県北中三年、第九)
から

◆五万円―拾得物の謝礼金を全額

県北中に

◆朽木哲也さん(前田)から
三万円―故トミさんのご遺志

◆桑折町・伊達町・国見町学校給
食センター納品組合から

スリッパ(米費用)六十足

藤田幼稚園に

◆朽木哲也さん(前田)から
三万円―故トミさんのご遺志

◆五万円―備品代として

大木戸小学校に

◆阿部恒夫さん(大木戸)から
三万円―故武夫さんのご遺志

◆桑折町・伊達町・国見町学校給
食センター納品組合から

学童用洋傘二十本

森江野小学校に

◆桑折町・伊達町・国見町学校給
食センター納品組合から

学童用洋傘二十本

小坂小学校に

◆桑折町・伊達町・国見町学校給
食センター納品組合から

学童用洋傘二十本

藤田小学校に

◆桑折町・伊達町・国見町学校給
食センター納品組合から

学童用洋傘五十本

◆毎月第二土曜日の公金支払い
ができなくなります。

昭和三十八年八月からの金融機
関第二土曜日休業に伴い、八月か
ら毎月一回、第二土曜日の公金支
払いが不可能になります。

なお、税金、その他の納入金に
ついては、各金融機関での取扱い
はできませんが役場会計室で従来
どおり取扱いをいたします。

◆ご不便をおかけしますがご協力
をお願いします。

(役場会計室)

河川愛護月間
きれいな川を
とり戻そう!
7月1日~31日

中小企業向け
中元融資のおしらせ

国民金融公庫福島支店では、た
だいま中小企業向け中元融資を、
左記要領により取扱っています。
一 申込資格 資本金一千万円以下
または従業員百人以下(商業、
サービスの業の場合は五十人以下)
の法人または個人事業者
二 融資額 運転、設備資金二〇〇
万円以内
三 融資期間 運転資金 五年以内
設備資金 七年以内
四 利率 年八・二%
このほか、業種、使途などによ
って三三〇万円までご利用いた
だける制度もあります。
くわしくは、左記にお問合せく
ださい。

国民金融公庫福島支店融資相談係
千九六〇 福島市大町一―十六
☎〇二四五―一三三三四

第二十二回
福島県勤労者美術展覧会
作品募集

福島県、福島県教育委員会、福
島県労政協会主催、福島県労働
福祉協議会など後援の、第二十二回
福島県勤労者美術展覧会の作品を
募集しております。
出品者
○県内の勤労者の作品で未発表の
もの
出品点数
○一種目一点とする。(写真は二点
以内。ただし入賞は一人一点)
装丁
○日本画、洋画、書については額
装し、写真についてはパネル貼
りとする。 (各部門ともガ
ラスを使用しないこと)
会期
○九月一日(木)―九月四日(日)
会場
○福島県文化センター三階ホール
搬入
○八月二十八日(日) 九時―十六時
文化センター西口
※なお、くわしくは、
☎(〇二四五) 二二一―一一一
福島県労政課までおたずねくだ
さい。

心配ごと相談日

場所: 役場二階相談室(東側入口からお入り下さい)
時間: 9時~12時
こまったことや、相談ごとがありましたら、
お気軽にご相談下さい。秘密は絶対を守ります。
〔相談員〕
7月25日(月) 吉川 弥吉、安藤 トヨ
8月5日(金) 桜沢 正、黒田 ヒロ
8月15日(日) 鈴木 正雄、吉田とし子

7月	文月(ふみづき)	8月	葉月(はづき)
16日(土)	勤労青少年の日	1日(月)	水の日
19日(火)	講演会と映画会 (国見町保護司会厚生保護婦人会)	7日(日)	観光の日
23日(土)	大 暑	8日(月)	立 秋
24日(日)	土用丑の日	15日(日)	終戦記念日



国見町公民館
電話 (公) 26766
(和) 41156

少年仲間づくり教室

子ども会リーダーの育成を目指す「少年仲間づくり教室」の開設が三日午後一時半より町公民館で開かれた。

この日は雨にもかかわらず小学五年生四十八人と父兄が出席した。

館長あいさつ、藤田小学校長祝辞のあと、これからの活動についての説明があった。



△開級式風景

式終了後、ボランテイアグループ「サークルばけつと」会員の指導で、ドジョウつかみ、サイン集めゲームなどのレクレーションをした。

また父兄は別室で同教室へ通う場合の注意、どのような協力が必要かなどの打合せを行った。

なお、今後の学習予定としては、

- 7月、室内ゲーム、キャンプ
- 8月 キャンプ反省会 O.L
- 9月 ソフトボール 町内清掃
- 10月 史跡めぐりハイキング
- 11月 昔の遊び(屋外) ドッジボール
- 12月 たこつくり、Xマスパーティー
- 1月 雪あそび
- 2月 閉級式

高齢者教室

○六月の行事から
十六日(金)奉仕作業と学習会を実施。

午前九時から学級員全体による奉仕作業として、県文化財の古民家周辺の清掃を行い、学級員の真剣な作業により見ちがえるようになつた。

又作業終了後一時間三〇分以内に、福島女子短大教授見先生から「日中関係について」というテーマで中国視察の中からは有意義な講義をうけた。

○七月の行事予定

二十七日(水)午後九時三〇分より学習会「高齢期の生きがいと趣味づくり」講師武田 守先生(前福島中央公民館長)

婦人学級

合同研修旅行

七月三日(日)あいにくの雨の中、高城、どんぐり、西大校のばら、中央婦人学級生、三十六名を乗せた合同研修旅行のバスが、山形方面へ向けて出発した。

日本三大文珠のひとつ、智恵文珠の高島文珠へ参拝、学級生はそれぞれ、子供の願望成就を願った。

次に上ノ山にある、明清時代の東洋美術の最高とされる漆工芸品など、重要文化財指定の名刀などを百点を展示してある蟹仙洞、次にみゆき公園内にあるアラギ派歌人の斎藤茂吉記念館を訪れ、所蔵されている自筆原稿や、短冊、書簡、著書などのほか、同時代の

文人の書籍などが多く、茂吉の偉業を偲ぶことができた。
のど響き交響ふたつ(子) 櫻葉にみる乳母の母は死にたまふなり 歌集「赤光」

昼食にひとりづつ自己紹介をし、午後、芭蕉の句「閑さや岩にしみいる蟬の声」で知られる山寺に、慈覚大師が開いた比叡山の別院で、凝灰岩が風化され、奇観を呈する宝珠山の山腹に、諸堂が点在しており、雨もあがり、奥ノ院めぐし、石段を登っていきました。

帰りのバスの中では各学級ごと、自慢のものを披露しながら何事もなく、有意義な研修旅行を終えました。みなさん、おつかれさま。



△山形立石寺(山寺)

成人学級

○六月の行事から

二十四日(金)研修旅行を実施
会津特に喜多方周辺の文化財見学という目的で実施された。

天鏡園、伊佐須美神社、順成寺の中津大佛、蔵屋敷などの外特に日中ダム建設現場なども見学をし有意義な一日をすごした。

○七月の行事予定
十五日(金)学習会(午後一時三十分)

国見町の文化財の再認識をする意味で

「国見町の文化財」というテーマで実施する。

講師 菊池利雄氏
(国見町文化財保護審議会委員)



△伊佐須美神社のあやめ園(会津高田)



△一斉にスタート (女子の部)

400人が健脚を競う

外人先生も健闘

第五回国見町、桑折町マラソン大会は、十二日両町教育委員会主催で四百人が参加して行われた。桑折小で開会式のと男子は午前十時、女子は十時五十分スタートで国見・桑折地内の折り返しで男女、年令別に二キロから五キロまで六種目のコースに両町民がゴールを目指し健脚を競った。

参加者の中には、アメリカから県の英語派遣講師で県北中学校で教えているジェームス・ホランドさんも、一緒に走り国際色豊かな大会となり沿道には、家族、友人両町民がつかめかけ力走する選手に声援を送っていた。

▽中学生男子(4キロ) ①高原透



七夕まつり

(たんぼば公演)

△みんなで楽しく

文庫連絡会と町公民館主催の「ぬいぐるみ人形劇とゲーム大会」を福島女子短大、児童文化研究部二十八名の方々によって、二日午後一時から公民館で開いた。

昨年に続き、二度目の公演。母と子の公民館活動、文庫に参加している小学生など約百人が参加した。

人形劇では、「いぬのおまわりさん」の音楽に合わせたビエロの楽しいボードビルや、きつねの親子の指人形、等身大のぬいぐるみによる劇など、夢あふれるものがいっぱい。ゲームでは女短のお姉さん達といっしょに「じゃんけんゲ

- ③片平信貴(釧路)▽中学生女子2キロ
- ④稲村則子(釧路) 7分55秒
- ⑤佐藤直美(同)
- ⑥鈴木文恵(同)
- ▽一般男子・25才以下(5キロ)
- ①亀岡智也(桑折) 20分51秒
- ②森浩義(国見) ③吉田信幸(桑折)▽同35才以下(4キロ) ①安藤誠市(桑折) 12分59秒
- ②齋藤洋二(国見) ③本望裕一(桑折)▽同45才以下(3キロ) ①田中薫(国見) 10分30秒
- ②六戸正(桑折) ③青木功(国見)▽同46才以上(2キロ) ①新房通善(桑折) 7分37秒
- ②佐藤友一(同) ③佐藤元春(同)▽一般女子(26才以上) ①八巻洋子(国見) ②安藤喜美子(同)

ジャズダンス愛好会
 ……募集集中……
 (お父さんや子どもも一緒に！)
 練習日 毎週火曜日 (月4回)
 午後 7:30~9:00
 場所 福祉センター講堂
 くわしくは 津陽子(2180) 若原公子(2046) の方がえり!!
 シェアアット 美容と健康・心の

ーム」。「集団ジャンケン陣とりゲーム」ほか、二時間にわたり、人形劇、ゲーム」などで、楽しく過ごした。子供たちは喜んで帰っていた。

ニューファミリーで基礎知識を身に付けよう

(昭和58年度明日の親のための学級生募集)

第二回を迎えます国見町明日の親のための学級を来る八月十九日より毎週金曜日十回にわたり開設いたします。

時間は午後七時半より九時半までです。御同伴、友人又はお一人でもぜひ御参加下さい。

学習内容、講師など詳細については後で各戸配布のチラシを御覧下さい。受付は七月二十五日より公民館です。

公 二六七六
 有 四一五六

昭和五十八年度町民学校を開設

受付は八月一日より

町公民館では、来る八月二十二

あつかし俳句会

かきらの一輪咲いて夏至る
 風鈴を吊せば静かに風起り
 青葉清しく眼にしむ宮の森
 石砌によりそって可憐著我の花
 郭公や離れ座敷の女客
 会津路やこもり濃ゆき桐の花
 拭きとりて亡母ニコリ微笑真
 葉がくれに小粒揃へり門の梅
 童顔の父の遺影を父の日に
 母を追かせし友の瞳よ梅雨の星
 寺の屋根こんもりかくれ栗の花

昭和58年度町民学校開設科目

科	曜	時	間	期	日	講	師	定員
粘土人形教室	月	19:30	21:30	8/22・29	9/5・12	創作紙粘土	協会員 大竹	30名
		19:30						
着付教室	水	19:30	21:30	8/24・31	9/7・14	東北著物学院	院長 石山 慶子	30名
		14:00						
エアロビクス教室	木	14:00	15:30	8/25	9/1・8	波恵ジャズ&エアロビクススタジオ代表	石山 波恵	50名
		19:30						
福島の民話を聴く	土	19:30	21:30	8/27	9/3・10	日連	本民話の会 藤登志	50名
		19:30						

日を皮切りに、昭和五十八年度国見町町民学校を開設いたします。皆様の気軽な学習の広場として、是非ご参加下さい。

戸籍の窓口

(6月受付分)

出生おめでとうございます

子	名	保護者	部	落
貴英	之統	山崎	田母	上南部
貴	ひだり	山崎	田母	上南部
博実	佳敏	山崎	田母	上南部
雅賢	希子	山崎	田母	上南部
優和	光彦	山崎	田母	上南部
顕香	実二	山崎	田母	上南部
裕				

結婚おめでとうございます

氏名	男	女	部	落
谷保	津科	名	田母	上南部
浅野	野藤	名	田母	上南部
遠藤	藤木	名	田母	上南部
鈴木	木沢	名	田母	上南部
八木				

おくやみ申し上げます

氏名	年	部	落
阿達	79	大	上南部
上	86	大	上南部
斎	82	大	上南部
佐	81	大	上南部
浅	22	大	上南部
阿	81	大	上南部
仲	73	大	上南部
	79	大	上南部



▲焼香する高橋組合長

六月十四日、公立藤田総合病院で、火災時の患者の避難、救出、

藤田病院で消防訓練

らに行っていました。

消防活動を目的とした消防訓練が行われました。訓練には、医師、看護婦、職員が参加し、ハシゴ車とポンプ車を使つての救助活動にあつた中央消防署員、西分署員らと本番さながら

牛頭観世音を建立

昭和三十八年から放牧が始まつた町営牧場に、牛頭観世音が建立され、六月十日、快晴の中で、除幕式が行われました。

この牛頭観世音は、町営牧場が開牧されてから二十一年間、病氣などで亡くなつた二頭の牛の供養と、牧牛の無病息災を願うため、牧野組合が建立したものです。この碑は、畜舎わきに建てられたもので、高さ一・七m、幅一mのみかげ石でできています。除幕式には、高橋友義牧野組合長はじめ組合員のみなさん、佐藤善石工門町長、県や町の関係者が出席し、導師の読経のあと、めいめい焼香をして式を終えました。

わだ い



▲ハシゴ車で救助訓練

県道沿いの草刈り奉仕

しめ縄作りで知られる塚野目の野田善實さん(八六)は、毎年、塚野目県道の空かん拾いなどを行っています。

今年も、三月初めから六月まで、延べ二十五日間にわたつて、塚野



▲本番さながらに放水

目県道の両側の草刈りを行いました。両側の側こうには、毎年拾つているにもかかわらず、数百個の空カンや空びんなどが捨てられてあつたそうです。

編集日記

○毎日、うつろしい梅雨空が続



▲草刈りに汗を流す野田さん

人口と世帯

7月1日現在(前月比)6月中のうごき

男	5,907人 (+7)	転入	11人
女	6,235人 (-5)	転出	15人
口計	12,142人 (+2)	出生	14人
世帯数	2,866戸 (±0)	死亡	8人

○ところで、本紙で環境美化をとりあげましたが、あいかわらずゴミや空かんが目につくのが現状です。私たちが小さい頃は、よく川に裸足で入つたのですが、今はガラスの破片や空かんだらけ。私たちに潤いを与え、安らぎを与えてくれた自然をとりもどすために、一人ひとりが考えなおす時期にきているのではないのでしょうか。